

### 3. 新聞等に掲載された活動

#### ○放射線リスク制御部門 放射線分子疫学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
	ロシア、カザフの医師 6人 被ばく医療研修	長崎新聞	2015年 8月6日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会が招聘したロシアなど4カ国の医師らが長崎県庁を訪ね、研修開始を報告した

#### ○放射線リスク制御部門 国際保健医療福祉学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	長崎大学の川内村支援の紹介(連載)	長崎新聞	2015年3月8日	川内村の里山文化を取り戻すために、キノコ類の調査を継続していく考えを示した。
高村 昇・教授	長崎大学の川内村支援の紹介(連載)	長崎新聞	2015年3月9日	検証委の中間報告では、放射線の健康影響は極めて限られているとしている。
高村 昇・教授	長崎大学の川内村支援の紹介(連載)	長崎新聞	2015年3月10日	川内村が知の交流拠点となることが次のステップであるという見解を示した。
高村 昇・教授	中部電力にて放射線に関する講演を開催	電気新聞	2015年3月19日	発展途上の福島復興には、産学官の知恵を集めて、教訓を生かした新たな対策を考えることが大事だと示した。
高村 昇・教授	第62回日本小児保健協会学術集会の講演概要の紹介	教育医事新聞	2015年3月25日	事故当時子供だった世代の健康を丁寧に見守り、リスクコミュニケーションの継続の重要性やそのための人材育成が必要であると語った。
高村 昇・教授	福島県立医科大病院の看護師調査の説明	長崎新聞	2015年4月7日	医療従事者が放射線被ばくと健康影響について正しい知識を身につける事が重要として、教育の必要性を強調。
高村 昇・教授	福島県立医科大病院の看護師調査の説明	西日本新聞	2015年4月7日	医療従事者の離職に歯止めをかけるためにも、正しい知識を身につける被ばく医療分野の教育の必要性を示した。
高村 昇・教授	福島県立医科大病院の看護師調査の説明	日本経済新聞	2015年4月7日	避難の必要性を正しく判断するため、放射線の健康影響などの知識を医療従事者に広める必要があると述べた。
高村 昇・教授	日本医学放射線学会総会の講演	福島民報	2015年4月18日	県民の被ばくの低減化対策はある程度成功していると述べ、健康リスクについて詳細な研究の継続の必要性を示した。
高村 昇・教授	福島県川内村住民に行った放射線と健康影響リスク認知に関する調査の結果を発表	長崎新聞	2015年7月1日	住民のリスク認知が二極化していると指摘。復興の進捗状況への不満が行政や専門家への不信感に繋がり、健康影響への理解促進に影響していると分析。
高村 昇・教授	福島県川内村にて復興推進支援センターの開所式が開かれた。	長崎新聞	2015年7月10日	川内村、長崎大学、原子力安全協会が復興推進支援センターを共同で設置した。
高村 昇・教授	福島県川内村にて復興推進支援センターの開所式が開かれた。	西日本新聞	2015年7月10日	放射線量の測定、原発事故による健康への影響の調査、住民からの健康相談を受ける専門的な機関として開設。

高村 昇・教授	福島県川内村にて復興推進支援センターの開所式が開かれた。	産経新聞	2015年7月10日	将来の専門家が学び、世界に役立つ人材を育てていきたいと抱負を語った。
高村 昇・教授	中部電力の女性限定のモニター交流会で講演。	電気新聞	2015年7月14日	事故当時、正しい知識を伝える専門家が少なかったことは反省点であり、日本の今後の課題でもあると語った。
高村 昇・教授	2016年4月に福島県立医科大と共同大学院を設置。	日経産業新聞	2015年8月5日	放射線災害、被災経験を生きた教材として、次世代に継承できるような人材を育成する。
高村 昇・教授	放射線災害医療サマナーセミナー2015へ全国各地の大学生が参加。	福島民報	2015年8月21日	原発事故からの復興に向けた取り組みや、放射線の基礎などを研修する学生へ、川内村内のキノコの放射性物質検査の結果について説明した。
高村 昇・教授	環境省と福島県の放射線アドバイザーによる専門家意見交換会。	福島民報	2015年11月1日	川内村での活動や福島医科大との【災害・被ばく医療科学】分野の人材育成について述べた。
高村 昇・教授	川内村でのきのこの放射性物質測定の研究結果が論文掲載。	福島民報	2015年11月26日	採取場所や放射性セシウム濃度などを「キノコマップ」にまとめ、被災地の生活再建に向けてさらに研究を進めていくとしている。

## ○放射線リスク制御部門 放射線災害医療学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	福島で国際専門家会議	福島民報 福島民友	2015年 3月16日	総合討論の座長を務め「被災者のケアをする人への対応や制度づくりが新たな課題」と語る
山下俊一・教授	第11回 ヘルシー・ソサエティ賞受賞者発表	日本経済新聞	2015年 3月26日	教育者部門(国内)で第11回ヘルシー・ソサエティ賞受賞
山下俊一・教授	日本医学会 被災体験から提言	福島民友	2015年 4月13日	国内最大級の学会、日本医学会総合が京都市で開かれ、東日本大震災や東京電力福島第一原発事故に関する講演が行われた
山下俊一・教授	山下長崎大副学長講演	長崎新聞	2015年 6月9日	被爆70年記念講演会で「核に汚染された大地と健康影響について」と題して講演
山下俊一・教授	長崎大、高度被ばく医療機関指定へ	西日本新聞 朝日新聞 長崎新聞	2015年 6月11日	高度被ばく医療機関指定申請の会見で「指定されれば放射線についての教育や、非常時のネットワークづくりを急ぎたい」と話した
山下俊一・教授	被ばく線量：避難誘導者、上限引き上げ	毎日新聞	2015年 6月30日	原発事故時の避難誘導者らの被ばく線量上限の新基準の検討作業部会を設置、作業部会は、山下俊一・長崎大理事ら有識者7人で構成
山下俊一・教授	敷地外の防護措置検討	長崎新聞 読売新聞	2015年 7月7日	内閣府は、原発で重大事故が起きた際の安全確保に向けた制度づくりのため、有識者検討会の初会合を開き、座長には山下俊一長崎大副学長が就任した

	ロシア、カザフの医師 6人 被ばく医療研修	長崎新聞	2015年 8月6日	長崎・ヒバクシャ医療国際協会が招聘したロシアなど4カ国の医師らが長崎県庁を訪ね、研修開始を報告した
山下俊一・教授	ナガサキの経験 福島に	日本経済新聞	2015年 8月8日	福島支援プロジェクトを取りまとめる長崎大の山下俊一副学長は「危機に立ち向かう精神は先輩から脈々と受け継がれている」と語った

## ○細胞機能解析部門 幹細胞生物学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
小野悠介・助教	医療シリーズ	西日本新聞	2015年10 月23日	研究内容を紹介
小野悠介・助教	マルサンアイ(株)との共同研究	食品科学新聞, 朝日新聞(デジタル版), 読売新聞(デジタル版)他	2015年11 月11日	研究内容を紹介

## ○ゲノム機能解析部門 人類遺伝学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
三嶋博之・助教	未来メディア塾2015, MIT メディアX朝日新聞	朝日新聞	2015年10 月29日 (木)	ゲノム情報活用について未来メディア塾2015で、一般の人に向けて口演とシンポジウムに参加した。

## ○原爆・ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮崎泰司・教授	韓国への専門家派遣 事業実施	NASHIM (長崎・ヒバクシャ医療 国際協力会通信)	2015年10 月	韓国赤十字社の協力の元、嶺南大学病院で被爆者医療の状況、被爆二世への影響などについて質疑応答を央ない、「放射線の造血器に与える影響」について講演を行った。

## ○原爆・ヒバクシャ医療部門 腫瘍・診断病理学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中島正洋・教授	被爆と病気の影響解明	日本経済新聞	2015年8月 2日	原爆投下から70年を迎えるが被爆者が受けた大量の放射線の影響は今も続いている。被爆者の健康影響研究を進める一方で、米国から返還された組織標本などからも今後、遺伝子解析を行っていく。
中島正洋・教授	「被ばく医療研修で 韓国医師来崎」	NHK (NEWSWEB)	2015年10 月5日	韓国で暮らす被爆者の治療にあたっている医師らを招いた被ばく医療の研修が長崎大学で開かれ、被爆者のがんのリスクについて講義を行った。

中島正洋・教授	Die Angst um Fukushimas Kinder	STUTTGARTER ZEITUNG	2015年10 月9日	福島の小児の原発事故による健康影響が懸念されていることに関する報道。長年にわたる被爆者の健康影響研究で判明している結果について解説とコメントを求められた。
七條和子・助教	原爆被爆70年	TBS (サンデー モーニング)	2015年8月 9日	広島大学・長崎大学研究チームとして広島大学鎌田先生の内部被ばくの画像を提供し、長崎原爆被爆者の内部被ばくについてコメントした。